

# 検討を進めるための参考資料

熊本県教育庁県立学校教育局高校教育課

# 目次

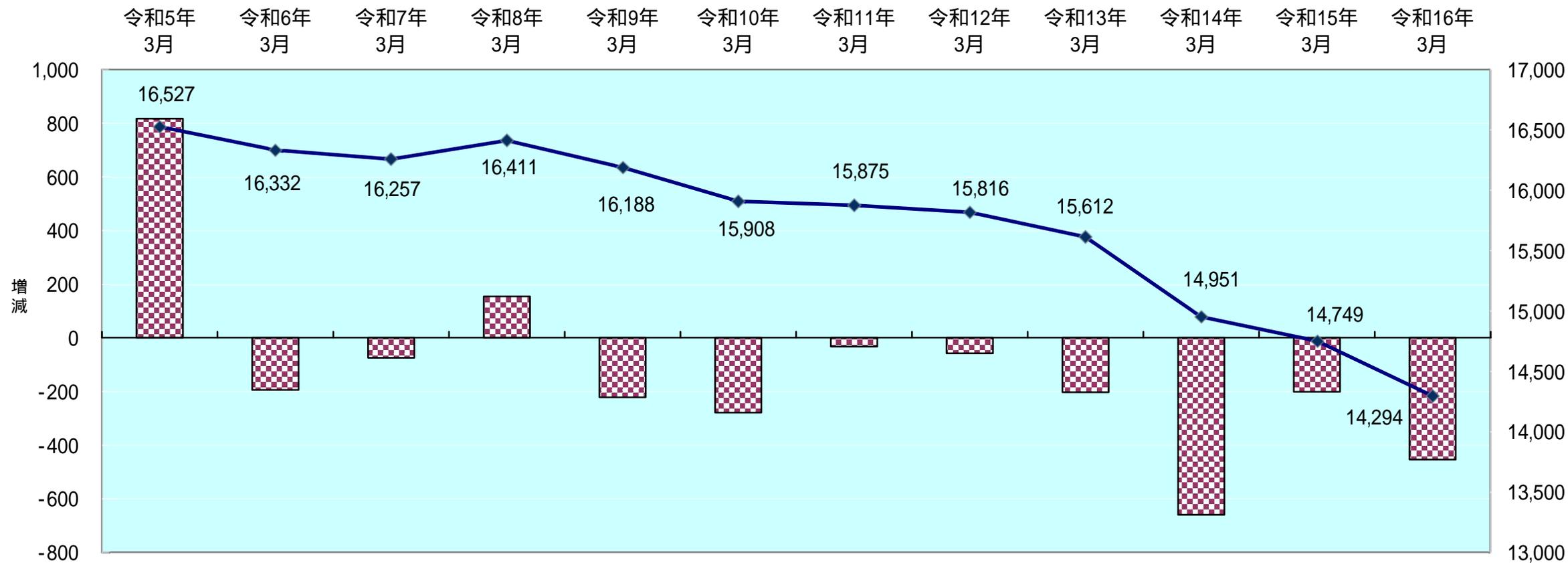
---

・ 中学校卒業予定者数の推移	3
・ 公私立高等学校数（課程別）	4
・ 県立高等学校数（学科・課程別）	5
・ 県立高等学校の生徒募集定員（課程・学科別）	7
・ 県立高等学校（全日制）の定員充足率（全体・学区別）	9
・ 公私立（全日制）の生徒募集定員	12
・ 公私立（全日制）の定員充足率	13
・ 高等学校等への進学率（全国）	14
・ 第2回検討会追加分	15
・ 第3回検討会追加分	26
・ 第4回検討会追加分	39

# 中学校卒業予定者数の推移

中学校卒業予定者数の推移

対前年差 中卒者数



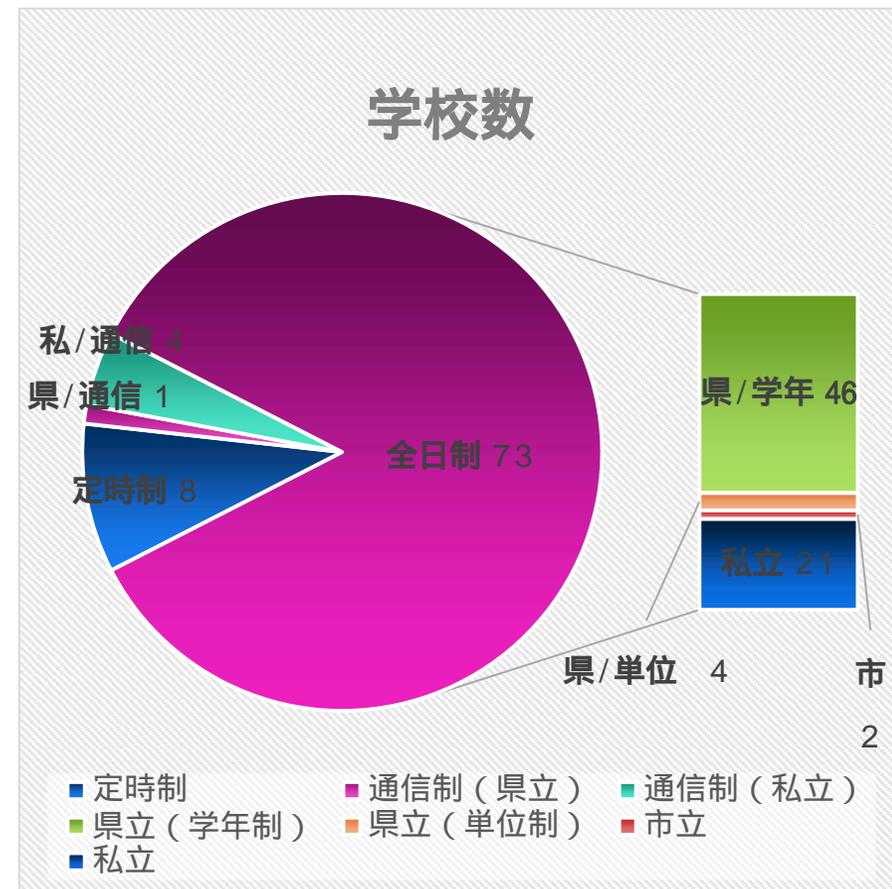
# 公私立高等学校数【課程別】

## （ R7全日制・定時制課程 ）

課程		県立	市立	私立	合計
全日制	学年制	46	2	21	69
	単位制	4	-	-	4
定時制		8	-	-	8
合計		58	2	21	81

## （ R7通信制課程 ）

課程	県立	市立	私立	合計
通信制	1	0	4	5



〔 ※一つの学校に課程が併置されている場合は、それぞれの課程について、重複して計上。 〕

# 県立高等学校数【課程・学科別一覧】

普通科：18校 専門学科：16校 普通科と専門学科：14校 総合学科：2校

## (R7全日制課程)

第1学年学級数(R7)		1学級(分校)	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	10学級
普通科	普通科のみ	倉岳 五木分校	小国(連携型)			八代清流	宇土(併設型) 八代(併設型) 天草	玉名(併設型) 人吉			済々黉 熊本
	学科・コースあり			岱志			鹿本		大津	第一 熊本北 東稜	第二
専門学科	農業科	泉分校		鹿本農業 八代農業 芦北		菊池農業		熊本農業			
	工業科					小川工業 球磨工業 天草工業	玉名工業	八代工業			熊本工業
	商業科									熊本商業	
	複数の学科				湧心館 北稜 鹿本商工						
普通科と専門学科			高森	甲佐 矢部	松橋 八代東 球磨中央 上天草	菊池 南稜	御船 水俣 阿蘇中央	天草拓心		熊本西	
総合学科				牛深				翔陽			
合計数	50	3	2	7	7	7	8	6	1	5	4

# 県立高等学校数【課程・学科別一覧】

普通科：4校

専門学科：2校

普通科と専門学科：1校

総合学科：1校

## ( R7定時制課程 )

第1学年学級数 ( R7 )		1学級 ( 分校 )	2学級	3学級
普通科	普通科のみ	岱志 玉名 人吉 天草		
専門学科	工業科			熊本工業
	商業科	水俣		
普通科と専門学科			湧心館	
総合学科		八代工業		
合計数	8	6	1	1

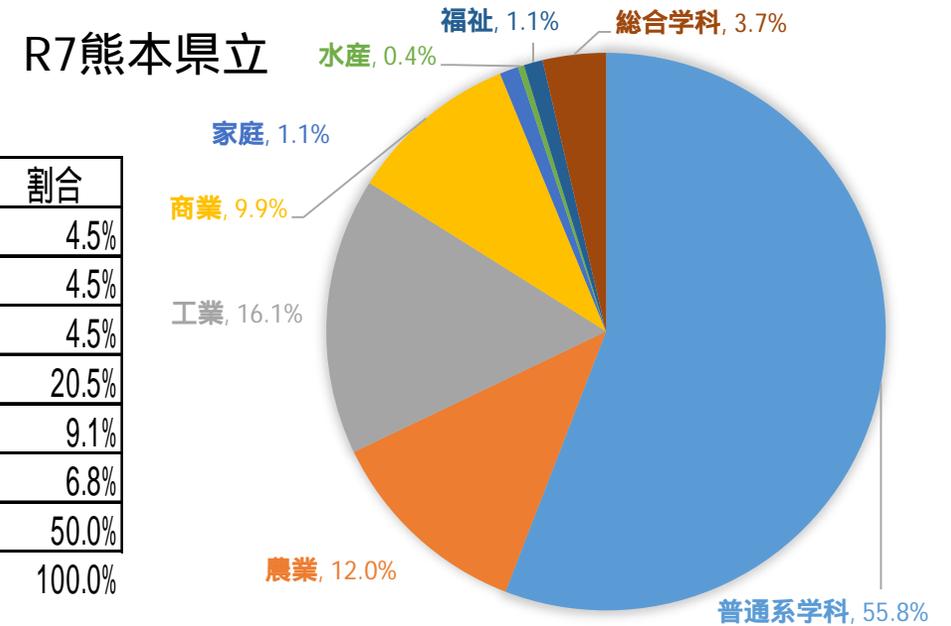
# 県立高等学校の生徒募集定員【課程・学科別】

## (R7全日制課程)

学科		募集定員	割合
普通系学科	普通	4,920	44.9%
	新たな普通	40	0.4%
	普通(コ-入)	880	8.0%
	小計	5,840	53.3%
	理数	160	1.5%
	英語	40	0.4%
	美術	80	0.7%
	普通系専門学科小計	280	2.6%
	普通 + 普通系専門学科	6,120	55.8%
	職業系学科	農業	1,320
工業		1,760	16.1%
商業		1,080	9.9%
家庭		120	1.1%
水産		40	0.4%
福祉		120	1.1%
職業系学科小計		4,440	40.5%
総合学科	400	3.7%	
総計	10,960	100.0%	



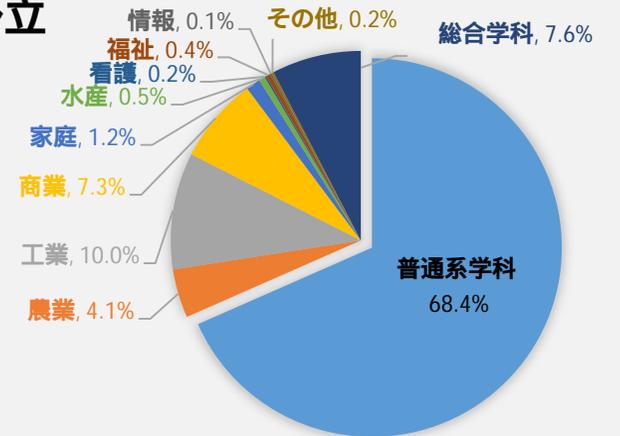
系統	募集定員	割合
理数関係	40	4.5%
語学関係	40	4.5%
国際関係	40	4.5%
体育関係	180	20.5%
芸術関係	80	9.1%
福祉関係	60	6.8%
その他	440	50.0%
コ-入計	880	100.0%



### 全国との比較

- ・ 農業系学科の割合が高い (約3倍)
- ・ 総合学科の割合が低い (約1/2)

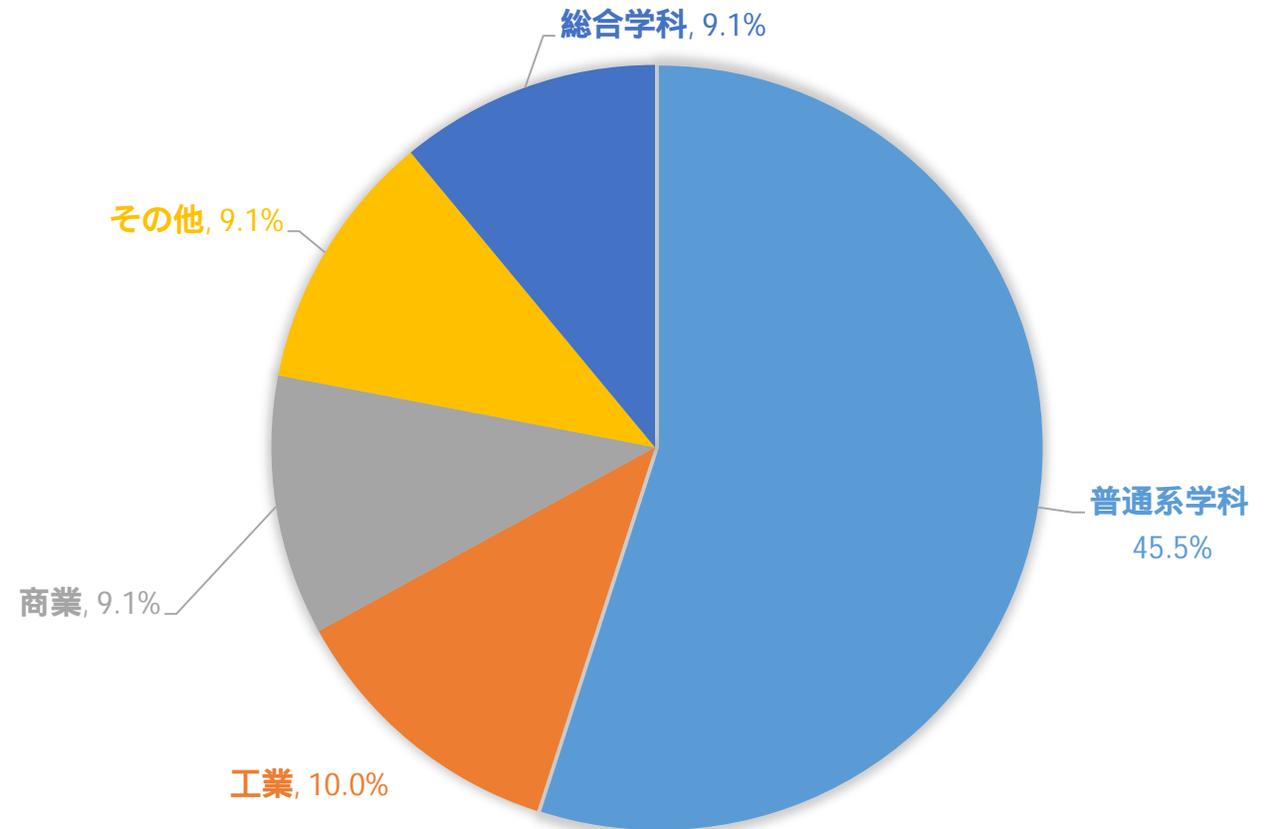
### R7全国公立



# 県立高等学校の生徒募集定員【課程・学科別】

## (R7定時制課程)

学科		募集定員	割合
普通科		200	45.5%
専門学科	工業	120	27.3%
	商業	40	9.1%
	その他	40	9.1%
	専門学科合計	200	45.5%
総合学科		40	9.1%
総計		440	100.0%



# 県立高等学校（全日制）の定員充足率【推移】

県全体の充足率は低下傾向

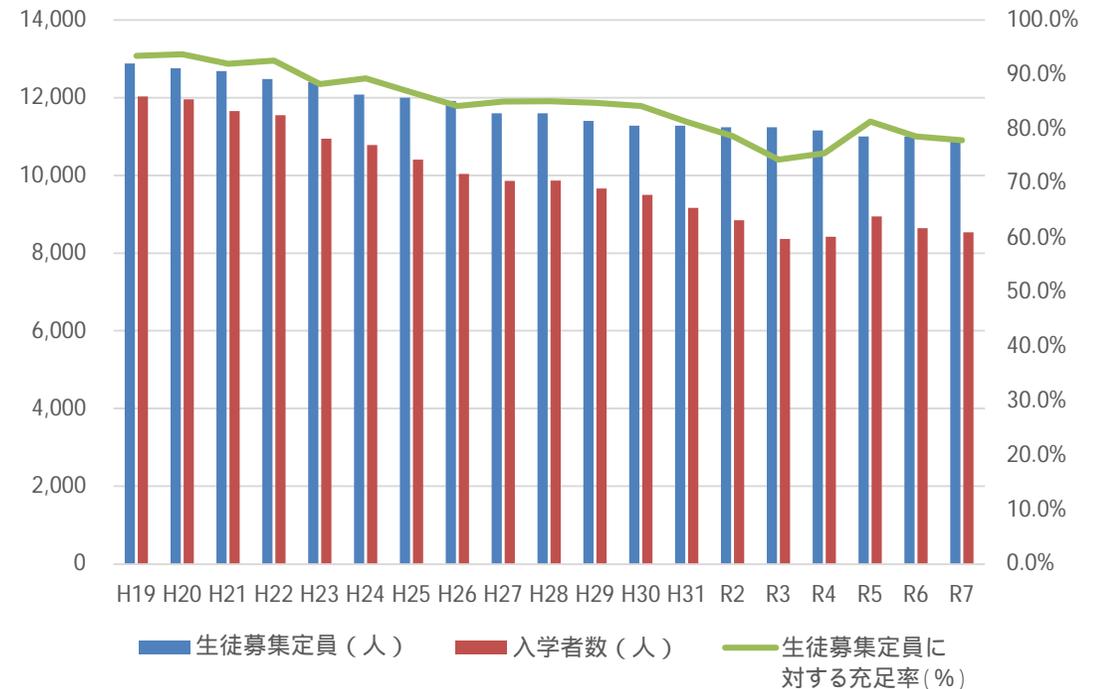
## 県全体

### (1) 定員充足率

	H19	...	H24	...	H29	...	R5	R6	R7
生徒募集定員(人)	12,880		12,080		11,400		11,000	11,000	10,960
入学者数(人)	12,031		10,779		9,661		8,945	8,644	8,533
生徒募集定員に対する充足率(%)	93.4%		89.2%		84.7%		81.3%	78.6%	77.9%

### (2) 定員割れの実数

	定員割れ高校数(県立)	定員割れ人数数(県立)
H31	36	2,206
R2	38	2,475
R3	41	2,937
R4	41	2,790
R5	36	2,112
R6	39	2,415
R7	40	2,477



進路状況調査より  
( R7は3月時点 )

# 県立高等学校（全日制）の定員充足率【推移】

県北学区と県南学区の充足率が70%前後と低くなっている

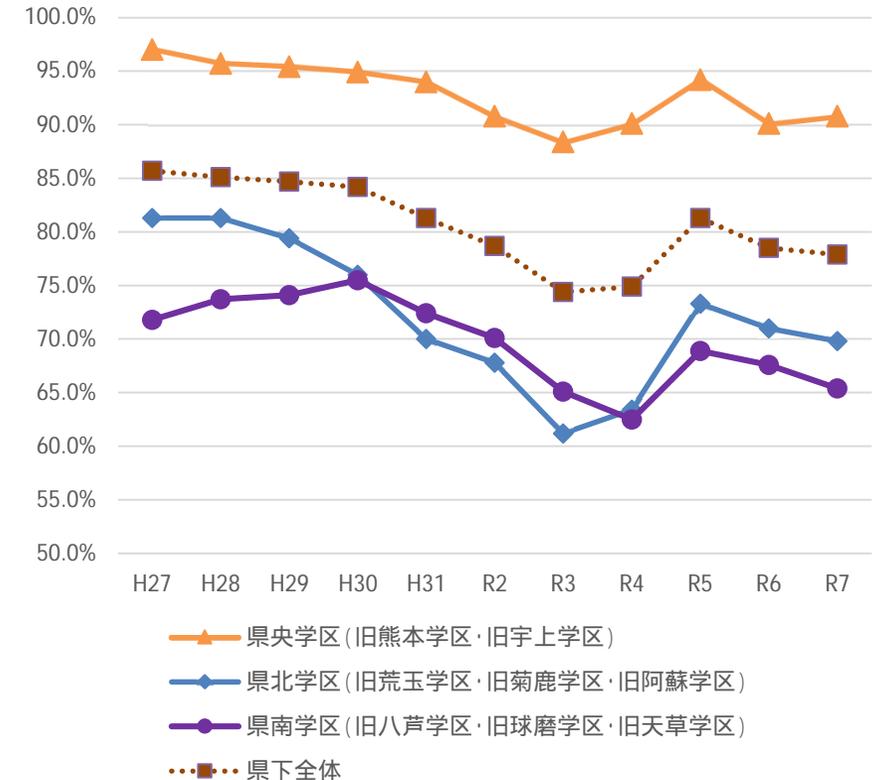
## 現3学区別

### (1) 定員充足率

	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
県央学区(旧熊本学区・旧宇上学区)	97.0%	95.7%	95.4%	94.9%	94.0%	90.8%	88.4%	90.1%	94.2%	90.1%	90.8%
県北学区(旧荒玉学区・旧菊鹿学区・旧阿蘇学区)	81.3%	81.3%	79.4%	76.0%	70.0%	67.8%	61.2%	63.4%	73.3%	71.0%	69.8%
県南学区(旧八芦学区・旧球磨学区・旧天草学区)	71.8%	73.7%	74.1%	75.5%	72.4%	70.1%	65.1%	62.5%	68.9%	67.6%	65.4%
県下全体	85.7%	85.1%	84.7%	84.2%	81.3%	78.7%	74.4%	74.9%	81.3%	78.5%	77.9%



定員充足率推移(H27～R7)



### (2) 定員割れの実数

	定員割れ高校数(県立)			定員割れ人数 県全体
	県央学区	県北学区	県南学区	
H31	7	12	17	2,206
R2	8	13	17	2,475
R3	10	13	18	2,937
R4	8	14	19	2,790
R5	7	11	18	2,112
R6	8	13	18	2,415
R7	9	12	19	2,477

# 県立高等学校（全日制）の定員充足率【推移】

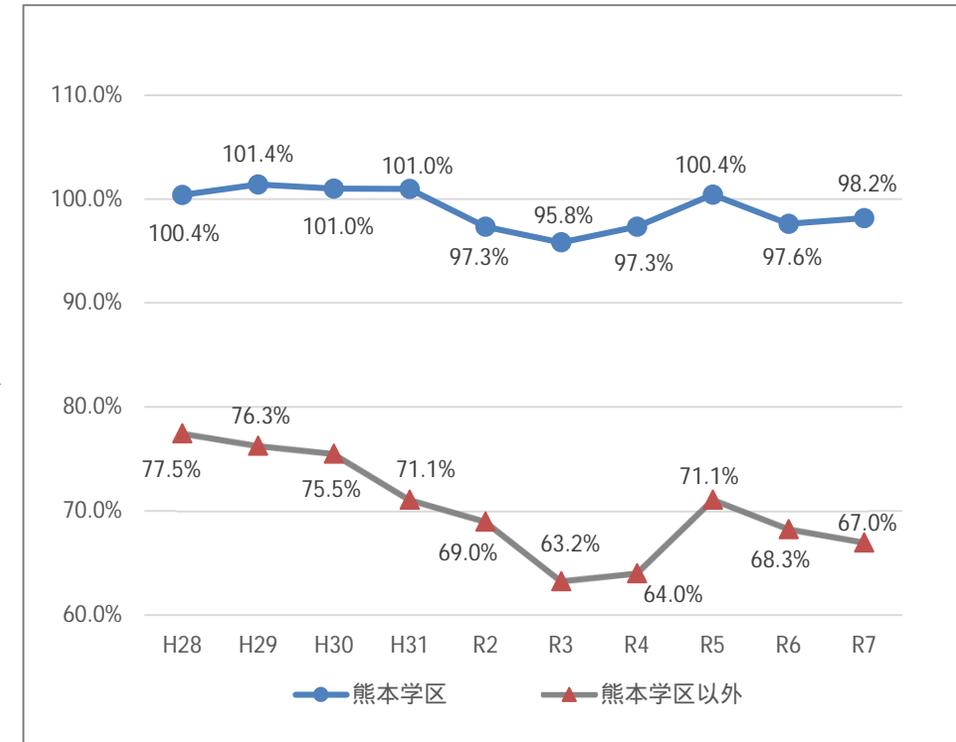
旧学区で見ると、旧熊本学区以外の充足率が低く70%前後で推移している

## 旧8学区別

### (1) 定員充足率

県立高校	R7			
	定員	入学者	定員割れ	充足率
熊本学区	3,840	3,769	123	98.2%
宇上学区	1,080	700	380	64.8%
荒玉学区	800	587	213	73.4%
菊鹿学区	1,520	1,073	449	70.6%
阿蘇学区	400	238	163	59.5%
八芦学区	1,400	975	425	69.6%
球磨学区	880	591	289	67.2%
天草学区	1,040	605	435	58.2%
全日計	10,960	8,538	2,477	77.9%

67.0%



# 公私立（全日制）の生徒募集定員【推移】

新入生数の減少幅に対して、公私立ともに募集定員の削減が少ない

生徒募集定員の推移

（単位：人）

年 度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
募集定員計 A(=B+C)	19,345	19,025	18,865	18,785	18,465	18,420	18,220	18,100	18,100	18,060	18,060	17,955	17,755	17,590	17,550
公 立	募集定員(B)	12,960	12,640	12,560	12,480	12,160	12,160	11,960	11,840	11,840	11,800	11,800	11,720	11,520	11,425
	増減	80	320	80	80	320	0	200	120	0	40	0	80	200	55
私 立	募集定員(C)	6,385	6,385	6,305	6,305	6,305	6,260	6,260	6,260	6,260	6,260	6,260	6,235	6,235	6,125
	増減	0	0	80	0	0	45	0	0	0	0	0	25	0	110
公立の割合 B/A	67.0%	66.4%	66.6%	66.4%	65.9%	66.0%	65.6%	65.4%	65.4%	65.3%	65.3%	65.3%	64.9%	65.2%	65.1%
私立の割合 C/A	33.0%	33.6%	33.4%	33.6%	34.1%	34.0%	34.4%	34.6%	34.6%	34.7%	34.7%	34.7%	35.1%	34.8%	34.9%

第1学年実員の推移

公立第1学年実員(D)	11,507	11,340	10,969	10,594	10,422	10,428	10,225	10,057	9,710	9,398	8,913	8,984	9,467	9,107	9,002
私立第1学年実員(E)	5,554	5,695	5,765	5,955	5,826	5,940	5,667	5,674	5,568	5,565	5,483	5,735	5,414	5,556	5,483
公私実員計(F=D+E)	17,061	17,035	16,734	16,549	16,248	16,368	15,892	15,731	15,278	14,963	14,396	14,719	14,881	14,663	14,485
公立の割合(D/F)	67.4%	66.6%	65.5%	64.0%	64.1%	63.7%	64.3%	63.9%	63.6%	62.8%	61.9%	61.0%	63.6%	62.1%	62.1%
私立の割合(E/F)	32.6%	33.4%	34.5%	36.0%	35.9%	36.3%	35.7%	36.1%	36.4%	37.2%	38.1%	39.0%	36.4%	37.9%	37.9%

各年度5月1日現在 高校教育課調べ「令和7年3月卒 新入生徒の教育事務所別内訳」より

# 公私立（全日制）の定員充足率【推移】

特に公立高校の充足率が低下傾向

年 度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
公立定員充足率(D/B)	88.8%	89.7%	87.3%	84.9%	85.7%	85.8%	85.5%	84.9%	82.0%	79.6%	75.5%	76.7%	82.2%	79.4%	78.8%
私立定員充足率(E/C)	87.0%	89.2%	91.4%	94.4%	92.4%	94.9%	90.5%	90.6%	88.9%	88.9%	87.6%	92.0%	86.8%	90.7%	89.5%
公私定員充足率(F/A)	88.2%	89.5%	88.7%	88.1%	88.0%	88.9%	87.2%	86.9%	84.4%	82.9%	79.7%	82.0%	83.8%	83.4%	82.5%

市立高校（2校）【 】は生徒募集定員  
 必由館高校：文理総合探究科【305人】  
 千原台高校：情報ビジネス探究科、健康スポーツ探究科【160人】

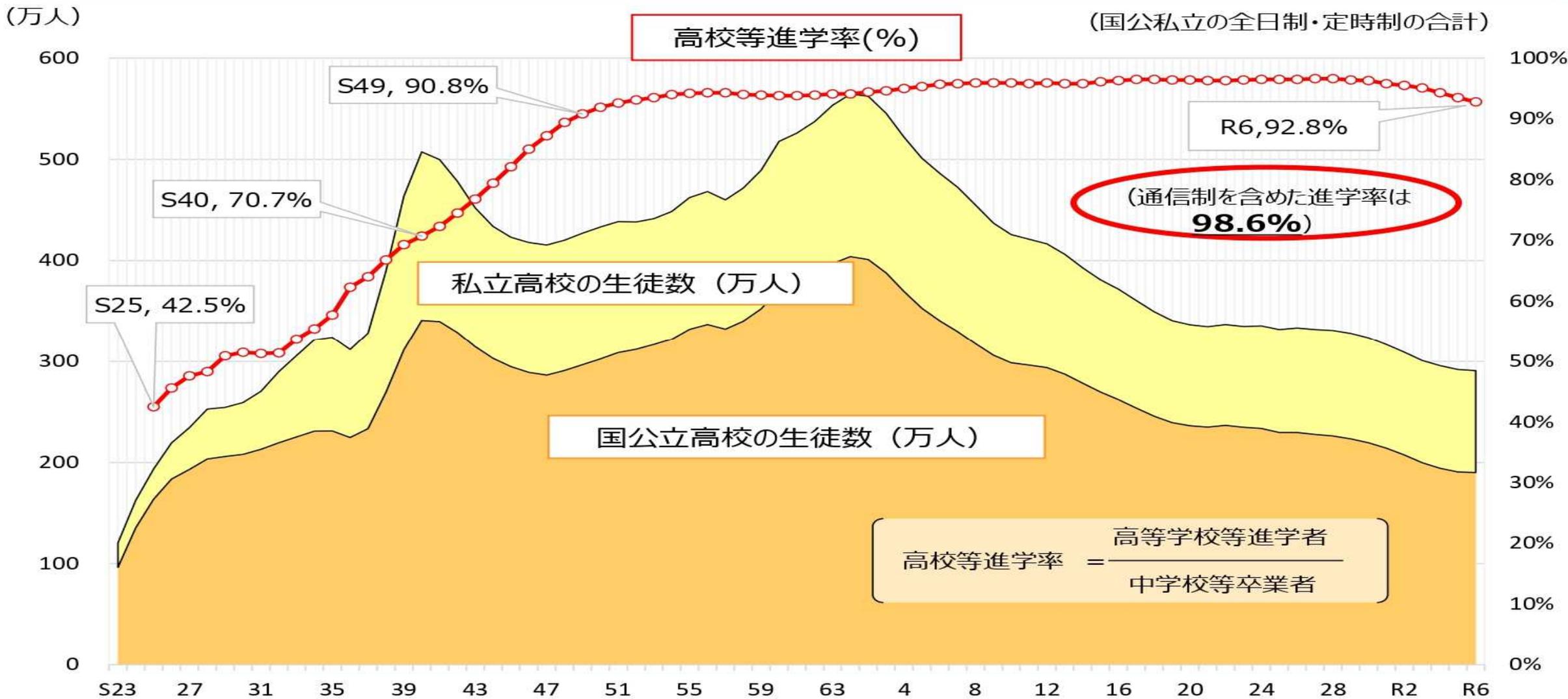
募集定員(R7県全体)  
17,550人

中学卒業生数  
(R7.3月)  
16,257人

# 高等学校等への進学率【推移】 全国

○ 高等学校等への進学率は、令和6年度には98.6%にのぼっている。

【出典】高等学校教育の在り方ワーキンググループ参考資料

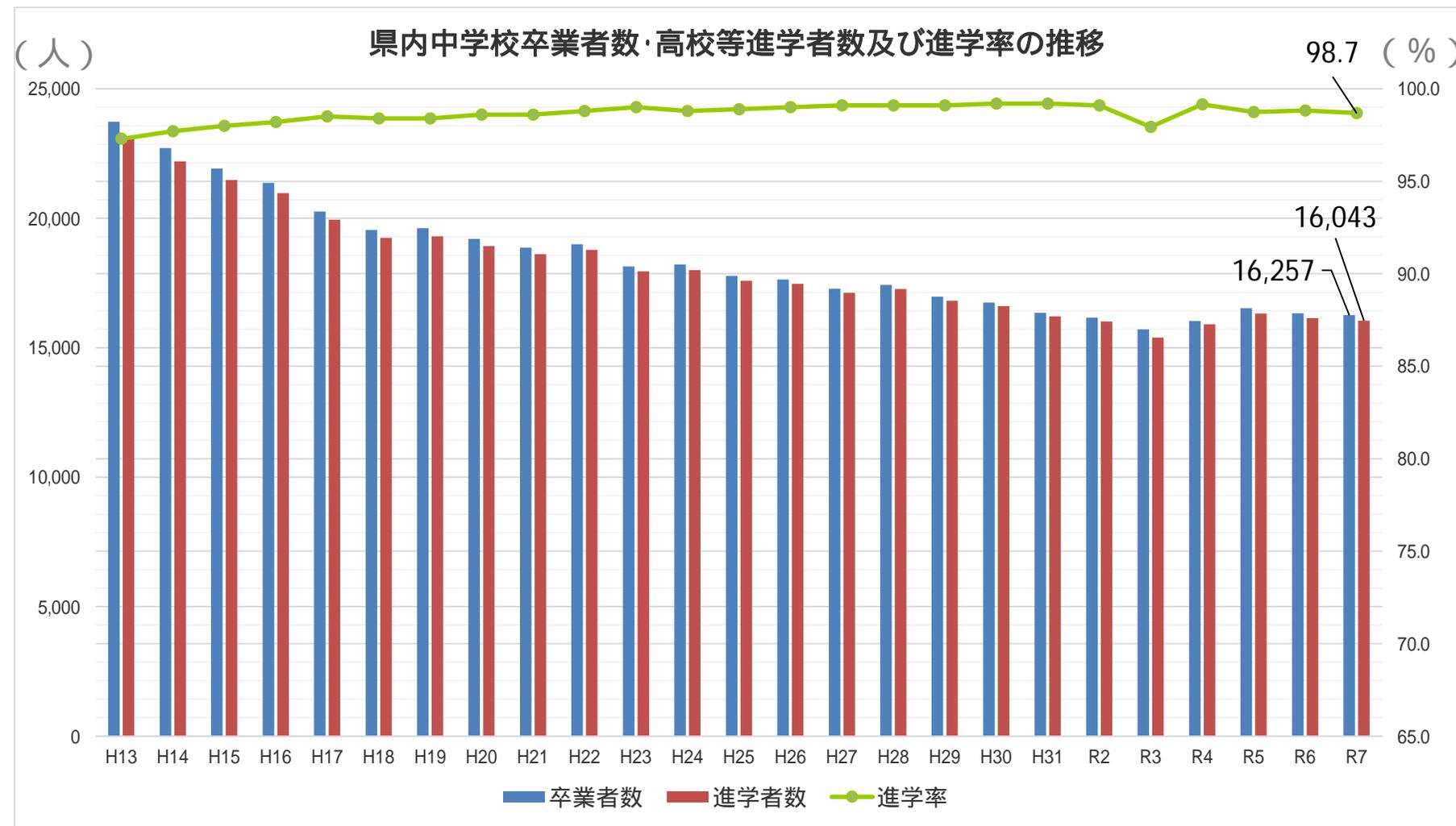


※「高等学校等進学者」とは、高等学校・中等教育学校後期課程・特別支援学校高等部の本科・別科及び専攻科へ進んだ者。進学しかつ就職した者を含む。

# 第2回検討会追加分

# 中学校卒業生数・高校等進学者数及び進学率【推移】

県内中学校卒業生数・高校等進学者数及び進学率の推移



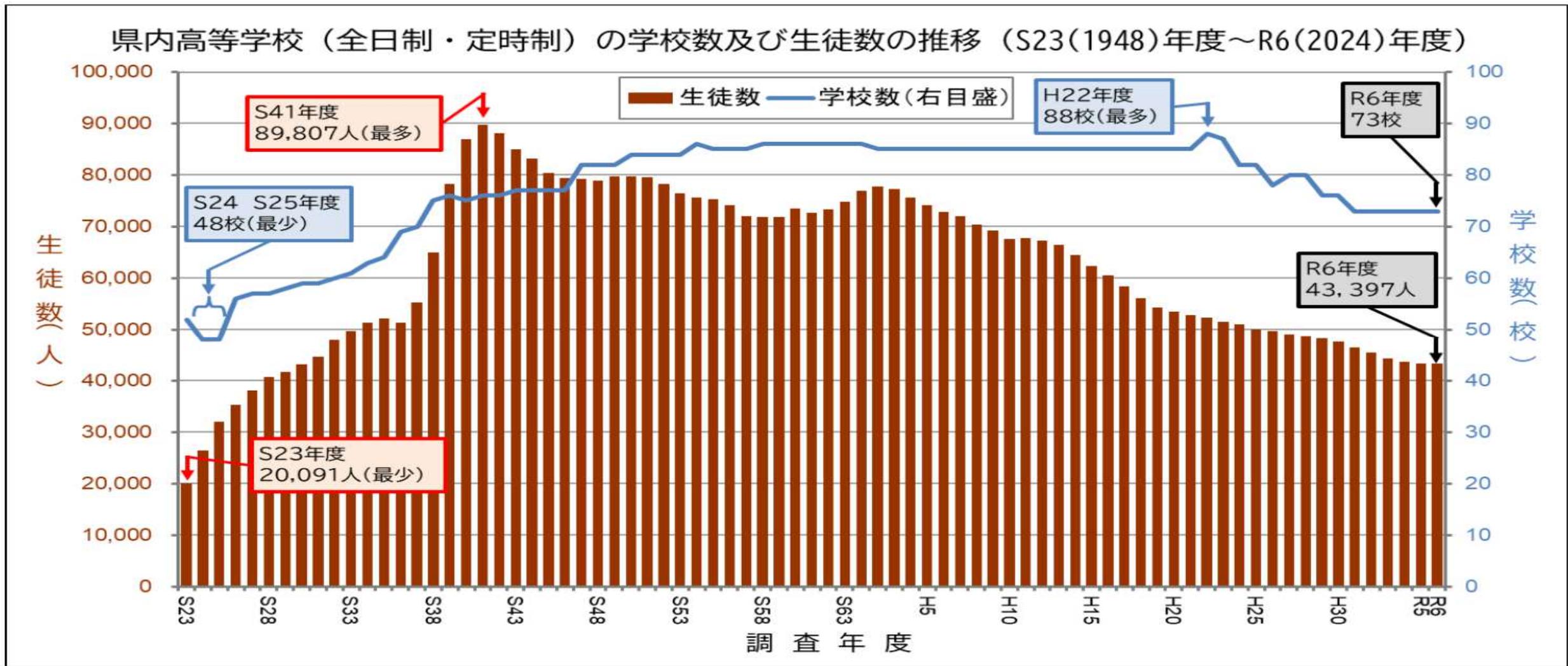
【過去10年の状況】

単位：人、%

卒業年	卒業生数	進学者数	進学率	参考	
				通信制進学者	通信制進学率
H27	17,275	17,122	99.1	196	1.1
H28	17,427	17,267	99.1	229	1.3
H29	16,971	16,812	99.1	225	1.3
H30	16,741	16,607	99.2	277	1.7
H31	16,344	16,212	99.2	323	2.0
R2	16,156	16,013	99.1	364	2.3
R3	15,710	15,386	97.9	454	2.9
R4	16,036	15,900	99.2	572	3.6
R5	16,527	16,319	98.7	708	4.3
R6	16,332	16,139	98.8	816	5.0
R7	16,257	16,043	98.7	875	5.4

注) 進学者：高校各課程・高等専門学校・特別支援学校への進学者の合計  
 進学率：高校各課程・高等専門学校・特別支援学校への進学者数 / 中学校卒業生数

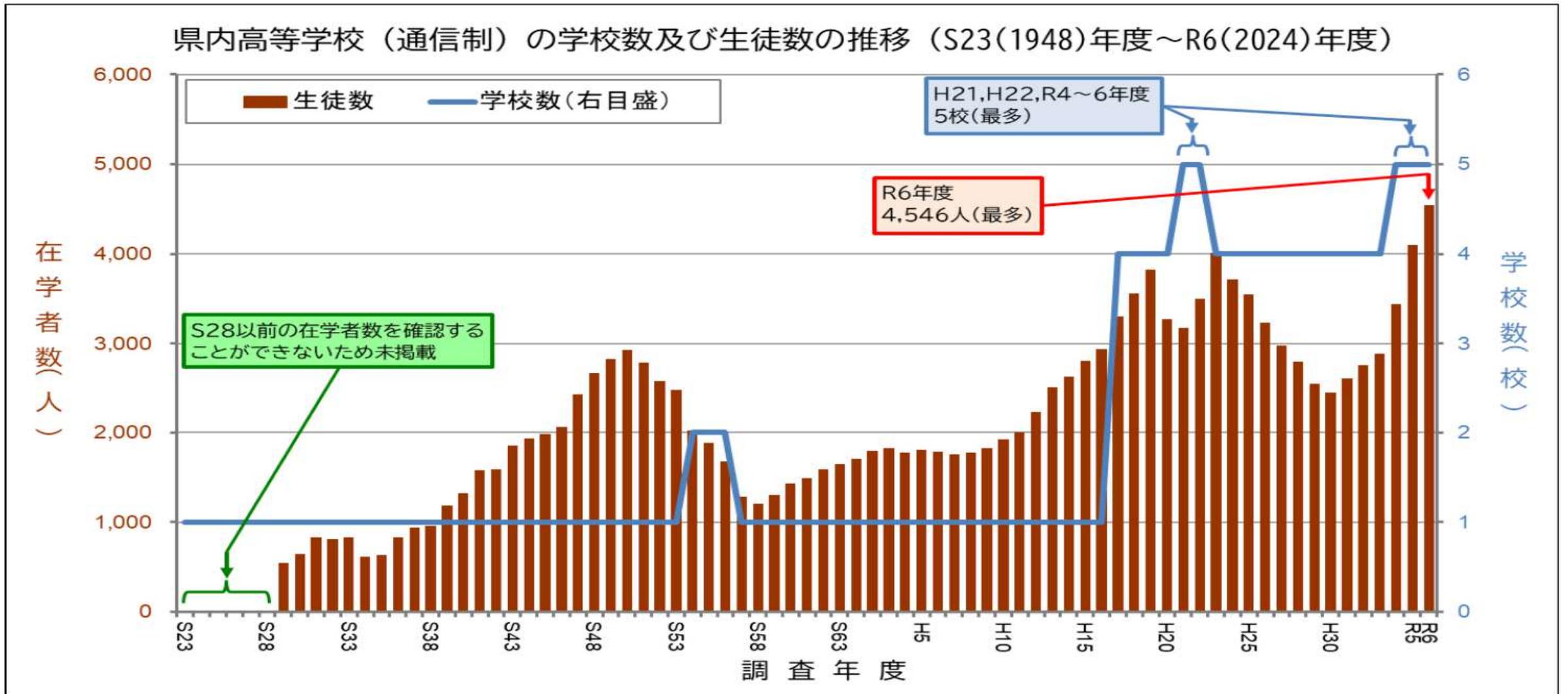
# 高校（公私立・全日制定時制）の学校数及び生徒数【推移】



R 6	県立・市立	私立	計
学校数	52	21	73
生徒数	27,053	16,344	43,397

（出典）令和6年度学校基本調査結果（熊本県分（確定値））

# 高校（公私立・通信制）の学校数及び生徒数【推移】



注) R6 学校数内訳：県立 1、私立 4

(出典) 令和 6 年度学校基本調査結果 (熊本県分 (確定値))

# 旧学区別流出入状況（全日制 公立・私立・高専）

R 7	中卒者数	流出数（割合）県外含む		流出先									県内進学 合計
				熊本学区	宇上学区	荒玉学区	菊鹿学区	阿蘇学区	八芦学区	球磨学区	天草学区	県外	
熊本学区	8,777	1,042	11.9%	6,869	204	77	516	26	72	3	16	128	7,783
宇上学区	1,425	873	61.3%	711	438	4	15	15	85	0	2	41	1,270
荒玉学区	1,303	434	33.3%	143	0	715	37	1	2	1	2	248	901
菊鹿学区	1,300	545	41.9%	440	1	43	646	20	12	2	2	25	1,166
阿蘇学区	378	213	56.3%	123	1	3	66	137	6	2	1	11	339
八芦学区	1,461	302	20.7%	186	40	6	8	0	1,042	1	2	59	1,285
球磨学区	747	101	13.5%	47	2	4	1	2	11	574	0	34	641
天草学区	866	227	26.2%	154	3	4	14	2	20	1	572	29	770
県外		539		150	6	136	59	31	146	5	6		
合計	16,257	3,737	23.0%	1,954	257	277	716	97	354	15	31	575	
他学区から県央学区への流入数（県外除く）				1,140									

# 高校（公私立・全日制定時制）の進路別卒業生数【推移】

R 6.3 卒

大学等（短大等含む）進学率：50.4%（全国 61.9%）  
 卒業生に占める就職者の割合：22.9%（全国 14.0%）

区分	計 （卒業生総数）	進路別卒業生数 (人)										(再掲)					大学等進学率 (%)	就職者の割合 卒業生に占める (%)	
		A 大学等進学者	B 専修学校（専修課程）進学者（専門）	C 専修学校（一般課程）等入学者	D 公施設等入学者 （職業能力開発）	E 就職者等（計）	F 左記以外の者	G 不詳・死亡	就職している者			H 左記E有期雇用労働者のうち かつフルタイム勤務相当の者 雇用契約期間が1年以上、 勤務相当の者	I 就職者総数						
									計	常用労働者									
										自営業主等	無期雇用労働者			有期雇用労働者	臨時労働者				
令和2年3月	14,931	6,923	2,678	947	44	3,983	745	3,192	14	32	351	5	1	1	-	2	3,940	46.4	26.4
令和3年3月	14,750	6,964	3,021	677	49	3,597	252	3,311	13	21	441	1	8	7	1	9	3,580	47.2	24.3
令和4年3月	14,388	6,899	2,708	847	52	3,452	198	3,200	34	20	429	1	4	2	2	28	3,430	47.9	23.8
令和5年3月	14,007	6,865	2,720	724	59	3,238	88	3,121	19	10	401	0	4	1	3	10	3,223	49.0	23.0
令和6年3月	13,401	6,759	2,529	553	69	3,085	91	2,973	14	7	406	0	0	0	0	9	3,073	50.4	22.9
対前年度増減	▲ 606	▲ 106	▲ 191	▲ 171	10	▲ 153	-	-	-	-	5	-	▲ 4	▲ 1	▲ 3	▲ 1	▲ 150	1.4	▲ 0.1

注) 1 「A 大学等進学者」とは、大学（学部）、短期大学（本科）、大学・短期大学の通信教育部（正規の課程）及び放送大学（全科履修生）、大学・短期大学（別科）、高等学校（専攻科）及び特別支援学校高等部（専攻科）へ進学した者であり、進学しかつ就職した者を含む。  
 2 「B 専修学校（専修課程）進学者」とは、専修学校の専修課程（高等学校卒業程度を入学資格とする課程で通常、専門学校と称する。）へ進学した者であり、進学しかつ就職した者を含む。  
 3 「C 専修学校（一般課程）等入学者」とは、専修学校の一般課程及び高等課程又は各種学校（予備校等）に入学した者であり、入学しかつ就職した者を含む。  
 4 「就職者総数」については以下のとおり  
 ・平成31年3月以前は、「E 就職者等（計）」「左記A, B, C, Dのうち就職している者（再掲）」の合計をいう。  
 ・令和2年3月以降は、「自営業主等」「無期雇用労働者」「左記A, B, C, Dのうち就職している者（再掲）」「左記E 有期雇用労働者のうち、雇用契約期間が1年以上、かつフルタイム勤務相当の者（再掲）」の合計をいう。  
 5 「卒業生に占める就職者の割合」とは「就職者総数」の「卒業生総数」に占める割合をいう。  
 6 「E 就職者等」の内訳、「F 左記以外の者」及び「G 不詳・死亡の者」は、表19の注）を参照。

（出典）令和6年度学校基本調査結果（熊本県分（確定値））

# 高校（公私立・通信制）の進路別卒業生数【推移】

R 6.3 卒 大学等（短大等含む）進学率 21.8%、就職率 13.6%

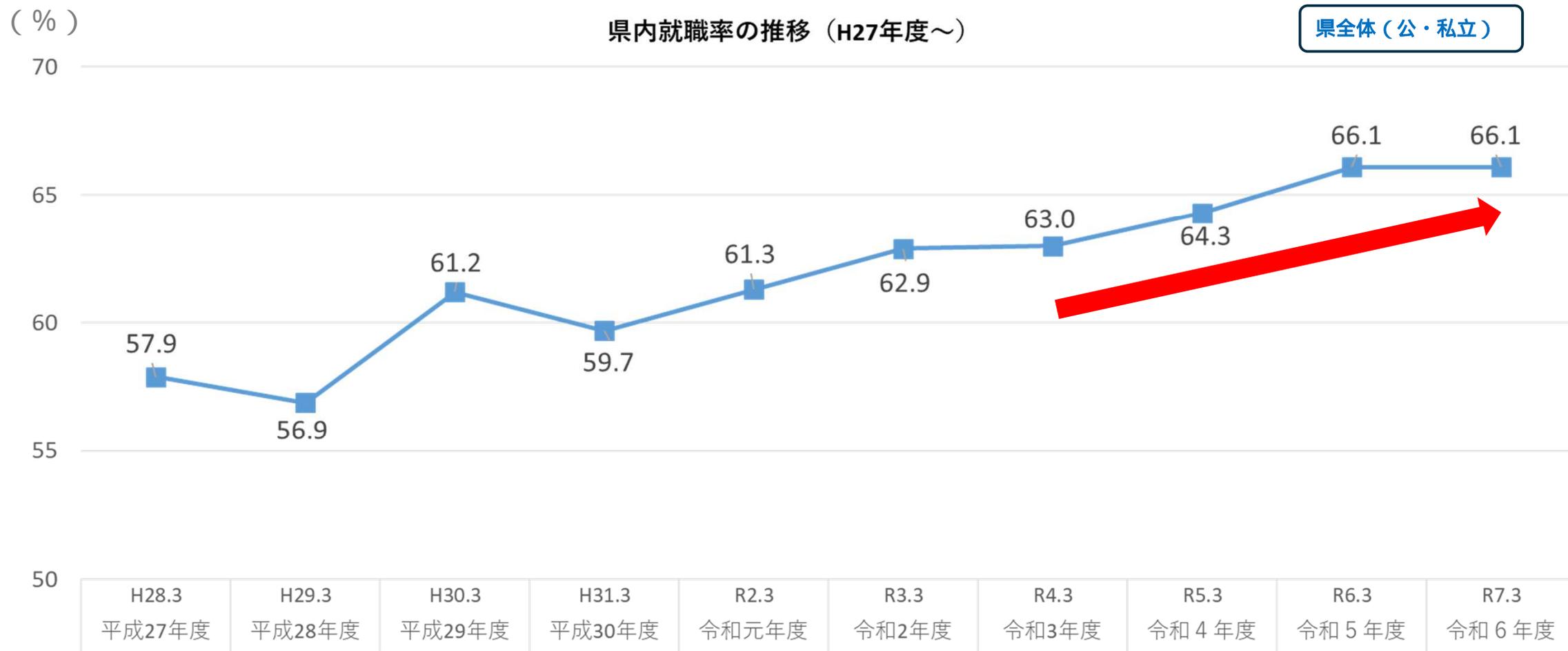
区分	進路別卒業生数											(再掲)		大学等進学率 (%)	卒業生の割合 に占める就職者 (%)		
	計 (卒業生総数) (人)	A 大学等進学者	B 進学者 専修学校(専門課程)	C 等入学者 専修学校(一般課程)	D 施設等入学者 公共職業能力開発	E 就職者等	就職者等			F 左記以外の者	G 不詳・死亡	左記A、B、C、Dのうち 就職している者	かつフルタイム勤務相当の者 雇用契約期間が1年以上、 左記E有期雇用労働者のうち			就職者総数 (人)	
							自営業主等	常用労働者									臨時労働者
							無期雇用労働者	有期雇用労働者									
平成31(令和元)	894	145	190	23	4	140	1	121	1	17	392	-	-	1	123	16.2	13.8
令和2年度間	1,073	182	249	31	4	165	-	152	2	11	442	-	-	1	153	17.0	14.3
令和3年度間	1,082	234	219	3	3	175	-	156	-	19	448	-	-	-	156	21.6	14.4
令和4年度間	1,274	293	274	2	1	209	2	185	-	22	495	-	-	-	187	23.0	14.7
令和5年度間	1,474	321	305	12	1	229	1	199	7	22	606	-	-	-	200	21.8	13.6
対前年度間増減	200	28	31	10	-	20	▲ 1	14	7	-	111	-	-	-	13	▲ 1.2	▲ 1.1

注) 各区分の定義は20ページ参照

(出典) 令和6年度学校基本調査結果(熊本県分(確定値))

# 高校（公私立・全日制定時制）卒業後の県内就職率【推移】

R 6 年度県内就職率：66.1%



# 本県における人口動態

R4年10月～R5年9月：20～24歳が他県への転出数が最も多い

年齢 (5歳階級)	純増減数	自然動態			社会動態(人口移動)									
		出生	死亡	自然 増減数	移動者 総数	県内 移動者数	他県 移動者数	転入者			転出者			社会 増減数
								総数	他県	その他	総数	他県	その他	
総数	▲10,019	11,468	24,592	▲13,124	118,065	42,136	62,590	39,517	30,564	8,953	36,412	32,026	4,386	3,105
0～4歳	11,865	11,468	31	11,437	6,458	3,186	2,920	1,850	1,620	230	1,422	1,300	122	428
5～9	281	0	5	▲5	3,814	1,570	1,886	1,265	1,057	208	979	829	150	286
10～14	140	0	11	▲11	2,034	777	1,064	704	577	127	553	487	66	151
15～19	▲805	0	17	▲17	6,745	1,869	4,366	2,044	1,575	469	2,832	2,791	41	▲788
20～24	▲284	0	32	▲32	22,602	5,756	13,639	8,297	5,791	2,506	8,549	7,848	701	▲252
25～29	361	0	36	▲36	22,388	7,247	11,835	7,769	5,675	2,094	7,372	6,160	1,212	397
30～34	696	0	43	▲43	14,698	5,429	7,068	5,004	3,653	1,351	4,265	3,415	850	739
35～39	713	0	45	▲45	9,839	3,627	4,892	3,485	2,643	842	2,727	2,249	478	758
40～44	300	0	99	▲99	6,708	2,429	3,485	2,339	1,853	486	1,940	1,632	308	399
45～49	▲83	0	159	▲159	5,344	2,014	2,918	1,703	1,469	234	1,627	1,449	178	76
50～54	▲47	0	207	▲207	4,402	1,704	2,446	1,429	1,285	144	1,269	1,161	108	160
55～59	▲42	0	356	▲356	3,421	1,347	1,926	1,194	1,100	94	880	826	54	314
60～64	▲365	0	546	▲546	2,424	1,117	1,210	744	681	63	563	529	34	181
65～69	▲775	0	979	▲979	1,843	905	849	571	521	50	367	328	39	204
70～74	▲1,768	0	1,833	▲1,833	1,473	760	667	389	362	27	324	305	19	65
75～79	▲2,172	0	2,201	▲2,201	970	519	427	240	229	11	211	198	13	29
80～84	▲3,064	0	3,051	▲3,051	937	562	363	181	175	6	194	188	6	▲13
85～89	▲4,871	0	4,854	▲4,854	965	616	345	166	163	3	183	182	1	▲17
90～94	▲5,530	0	5,528	▲5,528	717	499	210	108	103	5	110	107	3	▲2
95～99	▲3,487	0	3,477	▲3,477	240	172	64	29	28	1	39	36	3	▲10
100歳以上	▲1,082	0	1,082	▲1,082	43	31	10	6	4	2	6	6	0	0

## 【参考】

H10年10月時点の0歳人口

県全体	熊本市	熊本市以外
17,411	6,892	10,519

25年後

R5年10月時点の25歳人口

県全体	熊本市	熊本市以外
13,995	8,024	5,971
3,416	1,132	4,548

熊本県の人口（熊本県推計人口  
調査結果報告）を基に作成

# 大学入試における総合型選抜及び学校推薦型選抜の割合【推移】

R6年度：全入学者に占める総合型選抜及び学校推薦型選抜の割合は51.1%

## 【総合型選抜の実施状況（大学）】

R5：50.7% R4：49.7% R3：48.7%

実施年度	国立			公立			私立			計		
	大学数	学部数	入学者数	大学数	学部数	入学者数	大学数	学部数	入学者数	大学数	学部数	入学者数
令和4年度	78.0%	61.8%	5.6%	40.0%	36.5%	3.8%	91.4%	89.5%	15.7%	83.7%	80.8%	13.5%
	64	243	5,439	38	76	1,294	550	1,708	78,175	652	2,027	84,908
令和5年度	78.0%	62.2%	5.9%	41.7%	38.4%	4.1%	92.4%	91.1%	17.3%	84.7%	82.2%	14.8%
	64	247	5,744	40	81	1,445	558	1,773	85,204	662	2,101	92,393
令和6年度	79.3%	63.8%	6.1%	42.9%	38.3%	4.5%	93.4%	91.8%	19.0%	85.6%	82.9%	16.1%
	65	257	5,981	42	85	1,611	563	1,812	90,928	670	2,154	98,520

## 【学校推薦型選抜の実施状況（大学）】

実施年度	国立			公立			私立			計		
	大学数	学部数	入学者数	大学数	学部数	入学者数	大学数	学部数	入学者数	大学数	学部数	入学者数
令和4年度	93.9%	71.0%	11.7%	98.9%	97.1%	25.8%	99.7%	99.2%	41.7%	99.0%	94.6%	36.2%
	77	279	11,450	94	202	8,823	600	1,893	207,184	771	2,374	227,457
令和5年度	93.9%	71.8%	12.3%	99.0%	97.2%	26.0%	99.7%	99.6%	41.4%	99.0%	95.1%	35.9%
	77	285	12,015	95	205	9,083	602	1,939	203,375	774	2,429	224,473
令和6年度	93.9%	71.5%	12.4%	99.0%	96.4%	26.0%	100.0%	99.5%	40.3%	99.2%	94.9%	35.0%
	77	288	12,242	97	214	9,267	603	1,963	193,040	777	2,465	214,549

注) ( ) はそれぞれの全体数に対する割合

(出典) 文部科学省「令和6年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」 24

# 県立高校に対する地域からの支援例

## R 6 年度の主な支援

熊本県まとめ

包括協定に基づいた連携・協力

魅力化に関する事業（探究活動への支援等）

寮の開設・運営

公営塾の開設・運営

専門教育の充実に係る支援（講師謝金等）

学校への支援金

地域みらい留学に係る経費負担

部活動に関する費用補助

入学金、教科書購入費、通学定期代等補助

地元就職祝い金、国公立大学進学祝い金 など

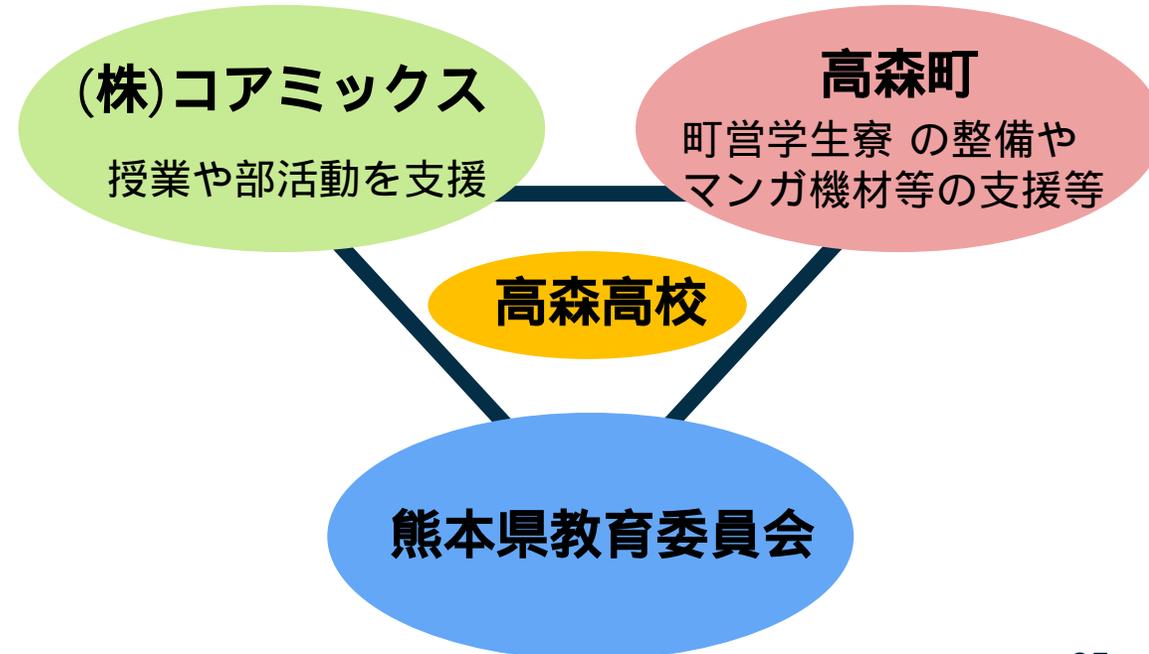
【取組例：地元市町村や企業等との連携】

高森町×(株)コアミックス×高森高校×県教委

R3.9 連携協定締結

公立では全国初！

R 5 高森高校にマンガ学科設置



# 第3回検討会追加分

# 「普通教育を主とする学科」の弾力化（普通科改革の意義・概要）

- 普通科には高校生の約7割が在籍する一方で、生徒の能力・適性や興味・関心等を踏まえた学びの実現に課題があるとの指摘もなされており、「普通」の名称から一斉的・画一的な学びの印象を持たれやすいところ、普通科においても、生徒や地域の実情に応じた特色・魅力ある教育を実現する。
- 普通科において特色・魅力ある教育を行うにあたって、従来の文系・理系の類型分けを普遍的なものとして位置付けるのではなく、総合的な探究の時間を軸として、生徒が社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成するための多様な分野の学びに接することができるようにする。



## 学際領域学科

現代的な諸課題のうち、SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

## 地域社会学科

現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

## その他普通科

その他普通教育として求められる教育内容であって当該高等学校のスクール・ミッションに基づく特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

# 総合学科（熊本県立翔陽高等学校）

## 総合学科とは

- 普通科... 5教科（国数英理社）を中心に学ぶ。
- 専門学科... 農業、工業、水産、家庭、看護、情報、福祉、理数、体育、音楽、美術、外国語、国際等の専門科目
- **総合学科... 普通科と専門学科両方の要素を併せ持つ。幅広い選択科目から自分で選択して学ぶことができる。**
  - \* 個性を生かした主体的な学習・自己の進路希望を深める学習を重視
  - \* 翔陽高校：100を超える選択科目あり。2年次から系列（農業、工業、商業、家庭、普通）ごとの選択ができる

## 成果（翔陽高校）参考：R5.12月調査

- 科目選択の自由度が高い 就職から進学まで幅広い進路希望に対応したカリキュラム編成可能
  - 探究的な学習をカリキュラムの中核に キャリア教育  
科目「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」
- 近年の入試倍率 前期選抜 (R7:2.53 R6:2.54 R5:2.58) 後期選抜 (R7:1.41 R6:1.36 R5:1.54)

## 課題（翔陽高校）参考：R5.12月調査

- 履修希望者数によって職員の業務量が左右され、調整しづらい 希望者ゼロで開講しない科目もあれば、2クラス必要になる科目も
- 選択科目を充実させるための教員確保

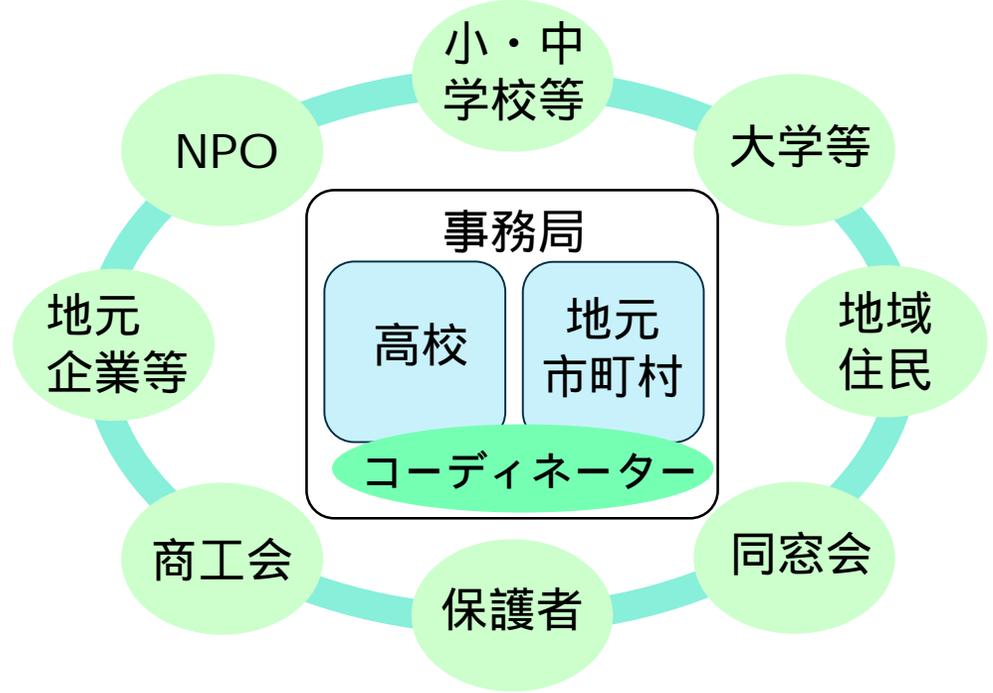
# 【熊本県】高校魅力化コンソーシアムモデル構築支援事業

新 R 7 当初予算額24,000千円

一部修正

○市町村とともに、県立高校における地域との協働体制(高校魅力化コンソーシアム)の先導モデルを構築し、その知見等を県内で広く共有することで、地元市町村等と力を合わせた県立高校の魅力づくりを実現させる。

## 高校魅力化コンソーシアム



学校運営の基本方針：学校、市町村、関係団体の代表等で策定

学校運営・教育活動：学校、市町村、関係団体の構成員等で魅力ある学校づくりに向けて協働

### < 期待できる効果 >

ビジョンの共有化が図られ、目指すべき方向が明確化  
 ② 属人的ではない、持続可能な地域との協働体制構築  
 地域課題の共有、地域資源の有効活用による高校の魅力化や地域が求める人材の育成 など

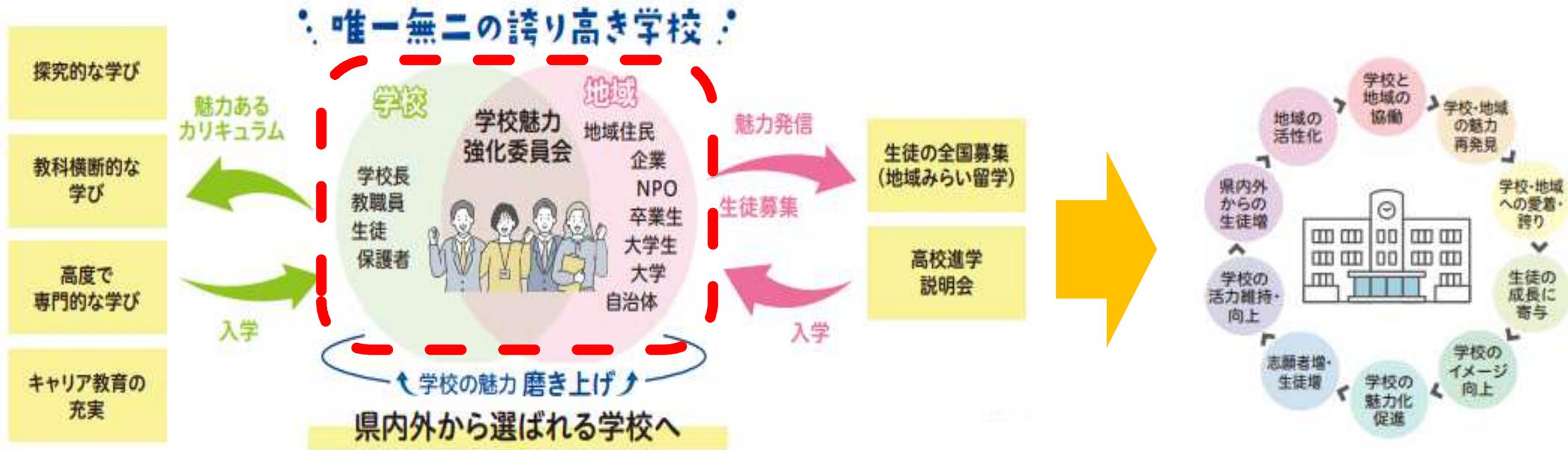
### < 想定市町村（6 枠 [ 7 市町 8 校 ] ） >

- 一市町一校(4 枠)：天草市(牛深高)、御船町(御船高)  
山都町(矢部高)、あさぎり町(南稜高)
- 一市複数校(1 枠)：玉名市(玉名高、玉名工業高、北稜高)
- 複数町一校(1 枠)：小国町・南小国町(小国高)

# 【先進事例】高校魅力化コンソーシアム

佐賀県教育委員会（R3～）  
「唯一無二の誇り高い学校づくりプロジェクト」

学校と地域との協働によって、県立学校の魅力や強みを徹底的に磨き上げ、それを積極的に発信することで県内外からの志願者を増やし、学校や地域の活性化を目指す取組 → 運営組織：学校魅力強化委員会



**9校を指定**  
(SAGAコラボレーションスクール)

学校魅力化アドバイザー（全9校に伴走支援）

地域・教育魅力化プラットフォーム

**学校魅力化コーディネーター**

学校と地域のコーディネート機能を担う

- ①探究学習の学習機会づくり
- ②地域住民や地元企業の高校生に関わる機会づくり
- SNSを活用した情報発信、広報活動
- 県外募集のための説明会でのPR活動

# 【先進事例】遠隔授業

北海道教育委員会（R3～）

T-base（配信センター）からの授業配信

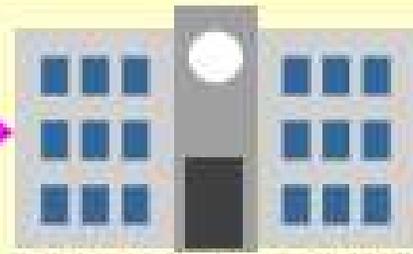
道としての取組に遠隔授業も位置づけ

「北海道高等学校遠隔授業配信センター（T-base）」



【配信センター】

遠隔授業  
進学講習



【地域連携特例校等】

- センター長（有朋高校の校長が兼務）
- センター専任の教員24名
  - ・次長（教頭）1名
  - ・教諭23名（国語、地理歴史、公民、数学、情報、理科、音楽、書道、外国語）

R6年度：31校（地域連携校29校、離島2校）

道立高校の数：189校（R6.4.1現在）

## その他の先進事例

**高知県：**配信センターと学校間の併用。県の中山間地域振興施策に遠隔授業が位置づけられている。教育委員会だけの取組ではない。

**長崎県：**R7.4月に「長崎県遠隔教育センター」開設予定。離島半島部の小規模校への遠隔授業、学校の枠を超えた多様な学び提供（R6に韓国語入門講座、公務員試験対策講座を試行）。



夢は、地元でつかみ取る。

Tele Teaching（遠隔授業を）  
Tied Triangle（配信センター、受信校、道教委の三者がしっかりと結び付いて）  
Tonden base（屯田から配信する拠点）

道は、ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）、ロボットなどの未来技術を活用した、活力にあふれる北海道の未来社会を「北海道Society5.0」として、その実現に向けた取組を推進しています。2030年ごろを想定しているよ！

そもそも、「Society5.0」って？

狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会とされています。

概ね10年後の北海道の未来社会「北海道Society5.0」の姿

ICTを活用した「遠隔授業」

道では、遠隔授業の機能を集中した「北海道高等学校遠隔授業配信センター（T-base）」を開設し、地域連携特例校や離島にある高校に、専任教員が授業を配信しています。

住民目線でデジタル化「書かない窓口」

北見市では、窓口支援システムの導入により、来庁者が申請書を書かずに手続きが完了する「書かない窓口」を実現。RPA（RPA）も導入し、事務の効率化と来庁者の待ち時間短縮など、市民サービスの向上につながっています。

「スマート農業」の推進

トラクターの自動操縦や採乳ロボット、ドローンによる画像分析や農薬散布など、ICTやロボット技術を使ったスマート農業技術が生産現場に導入されています。

# R 5 中学生（生徒）アンケート結果より

## Q.高校等進路選択時に重視すること（2つまで選択）

主な項目のみ抜粋

		全体	自分の学 びたい学 科やコー スがある	進学に必 要な学力 が身につ く	就職に必 要な技 術・資格 等が取得 できる	希望する 大学への 進学率 が高い（進 路指導が 充実して いる）	希望する 就職先へ の内定率 が高い （就職指 導が充実 してい	幅広い進 路が選べ る	大学の指 定校推薦 （すいせ ん）枠が ある	早い時期 に中学卒 業後の進 学先（合 格）が決 まる	楽しそ う、学校 の雰囲気 が良い	制服のデ ザインが 良い	特待生制 度（学力、ス ポーツ、 芸術な ど）があ る	自分の ニーズに 合った部 活動があ る	校舎が新 しく、ト イレ等も 清潔で快 適である	学費など の負担が できるだ け少ない
全体		(17559)	9001 51.3	7173 40.9	4436 25.3	3174 18.1	1627 9.3	3732 21.3	814 4.6	332 1.9	8219 46.8	3650 20.8	1445 8.2	2520 14.4	2204 12.6	2477 14.1
第1志望高校 区分	県内公立希望者	(13926)	7060 50.7	6167 44.3	3616 26.0	2735 19.6	1365 9.8	3169 22.8	575 4.1	224 1.6	6449 46.3	2669 19.2	814 5.8	1929 13.9	1680 12.1	2167 15.6
	県内外私立希望者	(3633)	1941 53.4	1006 27.7	820 22.6	439 12.1	262 7.2	563 15.5	239 6.6	108 3.0	1770 48.7	981 27.0	631 17.4	591 16.3	524 14.4	310 8.5

## 公/私希望要因は？

主な傾向

		全体	自宅から 近く、徒 歩や自転 車で通学 しやすい	学校が熊 本市内に ある	学校の近 くに買い 物したり 遊んだり できる 場所があ る	寮（りょ う）があ る	スクール バスがあ る	保護者な どの通勤 に合わせて 通学し やすい	路線バス や電車で 通学しや すい	バイク （原付） 通学が認 められて いる	その他	特にな い
全体		(17559)	8309 47.3	7627 43.4	4772 27.2	1427 8.1	919 5.2	1726 9.8	4642 26.4	796 4.5	191 1.1	1798 10.2
第1志望高校 区分	県内公立希望者	(13926)	7214 51.8	6144 44.1	3736 26.8	775 5.6	521 3.7	1461 10.5	3614 26.0	641 4.6	132 0.9	1395 10.0
	県内外私立希望者	(3633)	1095 30.1	1483 40.8	1036 28.5	652 17.9	398 11.0	265 7.3	1028 28.3	155 4.3	59 1.6	403 11.1

共通

学科、楽しそう、  
熊本市内にある

公立  
希望者

進学、少ない学費負担、  
自宅から近く通いやすい

私立  
希望者

制服のデザイン、  
特待生制度、寮、  
部活、新しい校舎等

# R5 中学生（生徒・保護者）アンケート結果より

## Q.興味のある分野（学科等の新設又は学びの充実）（3つまで選択）

生徒

どのような分野に興味があるか

全体		延べ回答数 (31287)	%
1	eスポーツ	6563	21.0
2	文系・理系などにとらわれない幅広い学び	6022	19.2
3	先端デジタル技術 (AI、プログラミング、VR、AR)	5309	17.0
4	ファッション、美容、メイク	5054	16.2
5	小動物、ペット (飼育方法、動物看護、トリミングなど)	4816	15.4

保護者

どのような分野を学んでほしいか

全体		延べ回答数 (14406)	%
1	グローバル人材（海外で活躍できる人材）の育成	5466	37.9
2	先端デジタル技術 (AI、プログラミング、VR、AR)	5388	37.4
3	文系・理系などにとらわれない幅広い学び	4762	33.1
4	起業（会社経営、事業の立ち上げなど）	2925	20.3
5	コミュニケーションスキル (プレゼンテーションや表現など)	2255	15.7

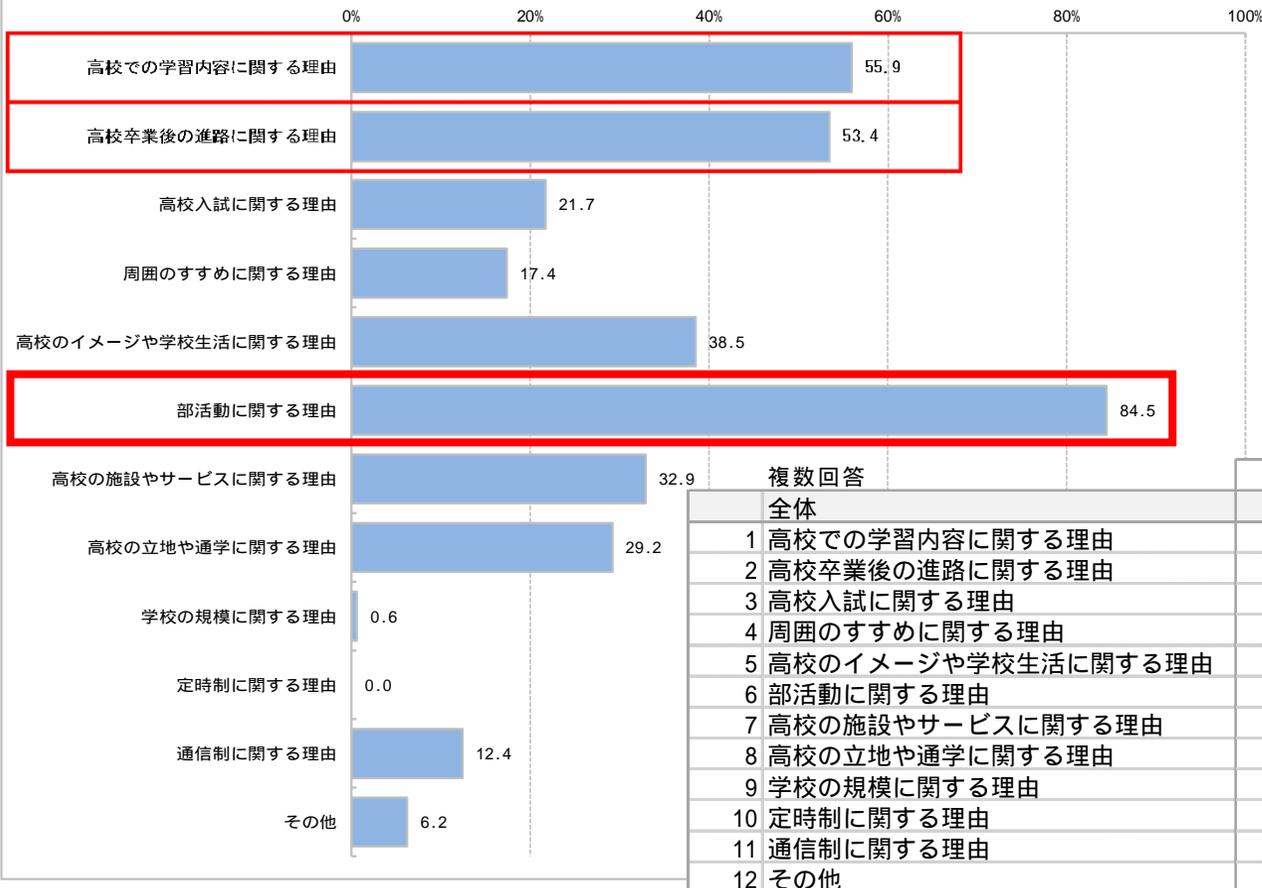
それぞれ上位5項目のみ掲載

# R5 中学校（学校長）アンケート結果より

## Q.私立高校を志望する理由（すべて選択）

[Q7] これまでに私立高校への進学を志望した貴校の生徒について、その志望理由としてどんなことが考えられますか。近年（概ね5年程度）特に多く見られる事柄について、次の中からあてはまる項目を9つ以内で選択してください。なお、選択した項目については、次の質問で、具体的な理由を記入していただきます。

(n=161)



< 上位3項目 >

- 「部活動に関する理由」 84.5%
- 「高校での学習内容に関する理由」 55.9%
- 「高校卒業後の進路に関する理由」 53.4%

地域内の公立高校を志望する理由との比較

- 「高校の立地や通学に関する理由」 -55.9%ポイント
- 「部活動に関する理由」 +21.1%ポイント
- 「学校の施設やサービスに関する理由」 +18.0%ポイント

### 【自由記述（主なもの）】

- ・強豪校で部活動に打ち込みたい。
- ・高校からの部活動で勧誘があった。
- ・大学進学に特化したコース等がある。
- ・学びたい学科等がある。
- ・大学の指定校推薦が多い。
- ・自由な校風や楽しそうな雰囲気。
- ・施設やサービスが充実している。

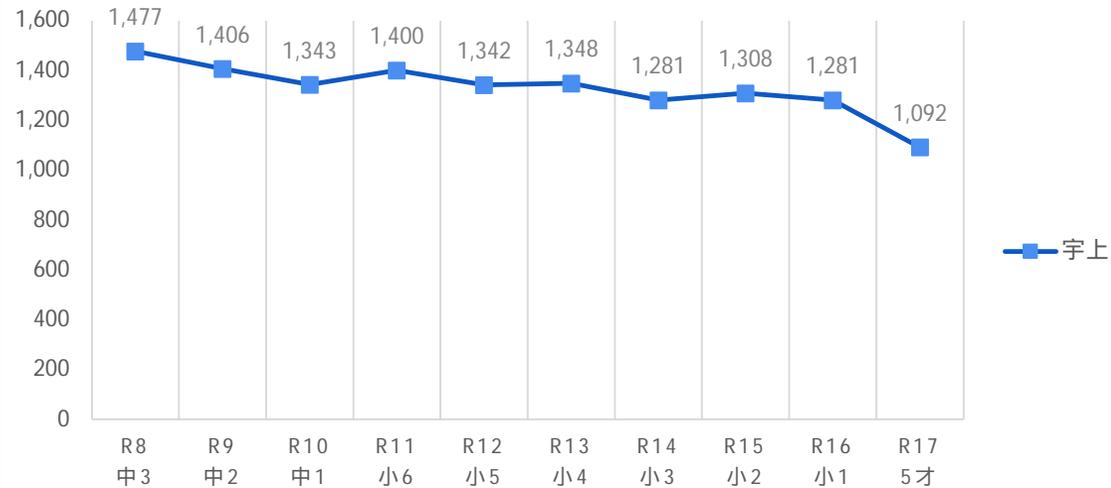
# 旧学区別中学校卒業生数の推移

以下のデータをもとに熊本県教委作成

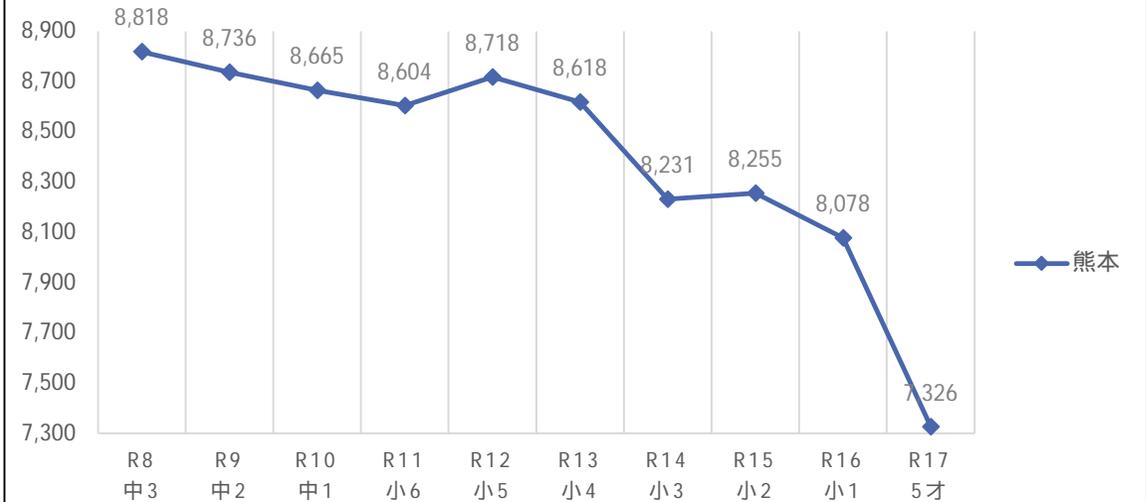
・ R 8 ~ R 1 7 : R7.5.1進路状況調査等県教委資料

・ R 1 7 : 県推計人口調査 (R6.10.1)

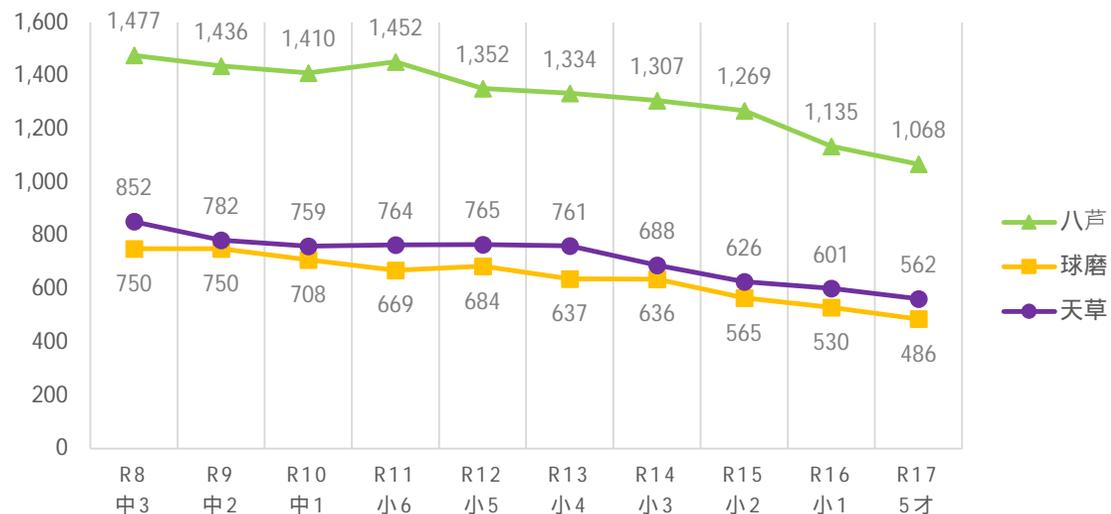
## 県央学区 (旧宇上)



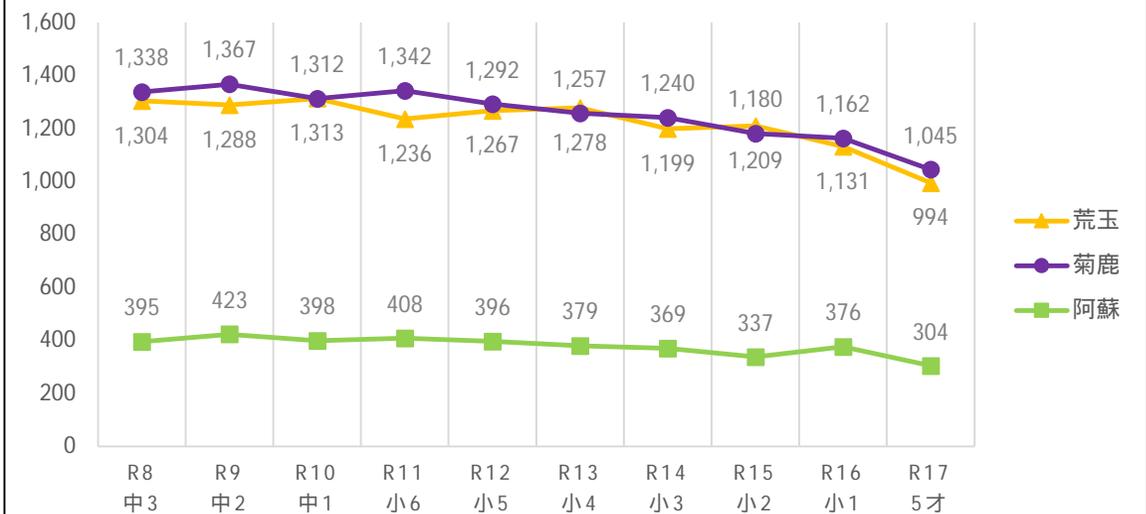
## 県央学区 (旧熊本)



## 県南学区



## 県北学区



# R 6 募集定員における 1 学年学級数別高校一覧

R6	1 学級	2 学級	3 学級	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級	9 学級	10 学級	学校数	学級数	A		B
													総計 A+B	定員割れ数/40 (クラス相当数)	R16-R6 中学卒業生数変化 (クラス相当数) ×0.70
旧熊本				湧心館			熊本農業		第一 熊本北	済々黌 熊本第二	11	96	22	3	19
								熊本西	熊本工業						
								東稜							
								熊本商業							
旧宇上			矢部 甲佐	松橋	小川工業	御船 宇土					6	27	14	10	4
<b>県央計</b>											<b>17</b>	<b>123</b>	<b>36</b>	<b>13</b>	<b>23</b>
旧荒玉			岱志	北稜		玉名工業	玉名				4	20	10	6	4
旧菊鹿			鹿本農業	鹿本商工	菊池農業 菊池	鹿本	翔陽	大津			7	38	13	9	4
旧阿蘇		小国 高森					阿蘇中央				3	11	7	5	2
<b>県北計</b>											<b>14</b>	<b>69</b>	<b>30</b>	<b>20</b>	<b>10</b>
旧八芦	泉分校		芦北 八代農業	八代東	八代清流	八代 水俣	八代工業				8	35	17	10	7
旧球磨	五木分校			球磨中央	球磨工業 南稜		人吉				5	22	11	6	5
旧天草	倉岳校		牛深	上天草	天草工業	天草	天草拓心				6	26	16	11	5
<b>県南計</b>											<b>19</b>	<b>83</b>	<b>44</b>	<b>27</b>	<b>17</b>
県全体	学校数	3	2	7	7	7	7	1	5	4	50				
	学級数	3	4	21	28	35	42	49	8	45	40	275	110	60	50

## 「定員割れによる学級減」の基準例

### 例

#### 1 学年 2 学級以上の学校

入学者が 3 年連続して 40 人以上定員割れの場合、原則として 1 学級減を行う。

#### 1 学年 1 学級の学校

入学者が 3 年連続して収容定員の 2 分の 1 未満の場合、原則として統廃合を行う。

ただし、1 学年 3 学級以下の学校で、**地域魅力化特例校** に認定された場合は、基準の適用を除外。

#### 地域魅力化特例校とは

学校の存続のために地域から必要な支援や評価が得られている学校

- ・ 特例校の認定は都度判断
- ・ 3 年程度ごとに更新

基準適用時期：「ア 計画的な学級減」着手後の令和 10 年度～

## ②人口減少を見据えた教育環境の整備 ~ ロードマップ (イメージ) ~

取組		R 7 ~ 概ね 10 年間		R11 ~ 12頃 中間見直し	
募集定員 の見直し <small>適正規模は 定めない</small>	計画的学級減 <small>(全県的な視野に立ち 全校を対象に実施)</small>	旧熊本学区 <small>(熊本市内)</small>	周知 → R 9 ~	実施	
		その他の旧学区 <small>(熊本市外)</small>	周知 → R 9 ~	実施	
	定員割れによる 学級減等 <small>(地域とともに取り組む 目標となる基準を明示)</small>	1 学年 2 学級以上	周知 → R 10 ~	基準適用	R 13 ~ 実施
		1 学年 1 学級	周知 → R 10 ~	基準適用	R 13 ~ 対象校決定
	少人数学級編制 <small>( 庁内調整が必要 )</small>	専門学科・小規模校	検討 →	実施	
		弾力的な定員調整	方法確立 →	実施	
	小規模化への対応	旧学区単位	地域における学びの充実を目的とした 学科や学校の発展的統合の検討		
	通学区域	普通科 <small>(コース除く)</small>	現状の3学区維持 <small>(学級減等による受検者の動向等 をみながら見直し)</small>		

# 第4回検討会追加分

# 本県の高等学校配置

